

生母の森林・林業を語る会が開催される ～奥州市前沢区 生母生産森林組合～

1 はじめに

奥州市前沢区の生母生産森林組合主催の第6回生母の森林・林業を語る会が開催されたので、その概要について報告します。

2 生母生産森林組合について

生母生産森林組合(大石喜清組合長)は、昭和31年に設立され、旧生母村から無償譲渡された森林(約300ha)を所有しています。

組合ではこれまで、月山神社周囲にある月山松の保存活動、イロハモミジの森づくり、漆の植栽などは多彩な活動を行っており、昨年には、月山松の保護活動が評価され、森林病虫害防除活動優良事例コンクールで林野庁長官賞を受賞しています。

また、平成24年度に施行された森林経営計画制度にいち早く着手し、平成24年6月に約160ha(分収林を除く)の計画認定を受けるなど森林整備にも意欲的に取り組んでいます。



【イロハモミジの下刈(県職員森づくり応援団)】

3 森林・林業を語る会について

生母の森林・林業を語る会は、平成21年から開催されており、今回で第6回目を迎えます。当日は、地域外の林業関係者含め約

50名の参加のもと、森林経営計画の認定・実行の進捗状況等が報告されたほか、県、市、森林組合から現状報告や補助制度の概要等の説明がありました。

また、県南広域振興局による「出前林業相談」も行われました。



【大石組合長の説明】

4 ゲストの講演

「森林・林業の再生に向けた改革の姿」の取りまとめ役を担った岩手大学の岡田秀二教授にも出席頂きました。

岡田教授から、森林経営計画の導入の考え方、今後の方向性について短い時間でしたが、御講演いただきました。

5 今後の展開

木材価格が低迷するなか、生産森林組合の経営は厳しい状況が続いており、森林整備活動も停滞している状況です。地域の森林整備を加速させるには、生産森林組合等大規模な所有者による森林経営計画の実践が必要となっています。

県南局では、「出前林業相談」等による活動を通じて、管内の生産森林組合の活動を支援していきます。